

愛媛県立松山聾学校における「魔法のふでばこプロジェクト」実施状況報告

1 今年度のiPadの活用目標と活用状況

聴覚障害児への言語指導や学習支援、コミュニケーション支援における iPad 端末の活用を通じて、その方法や効果について検討する。

活用状況としては、本校に貸与された3台を時間単位で先着予約制にて、主に授業時間の中で利用している。小学部、中学部、高等部での利用が多いが、基礎的な文字学習やコミュニケーション指導から、学年相応の教科学習、検索エンジンでの調べ学習等、用途は多岐にわたる。

2 現在活用しているアプリケーション（使用頻度の高いもの）

・筆談パッド

小学部における文字の書き取り学習で活用している。教師と児童が対面で使用し、児童の書いた文字や答え（青字）に応じて、教師が赤字で訂正や丸印を付けるなど、即座に目に見える形での指導や支援を行うことができる。（写真1）

今後は、単語レベルでの筆談のシミュレーションを取り入れた学習に活用予定である。

・Noise Level

発音発語の指導ツールとして、自立活動の時間における指導以外にも、学校生活の中で適宜活用している。聴覚的フィードバックが難しく、自分の声量のコントロールが難しい聴覚障害児にとっては、声量が目に見えて分かることで、自分の声量への意識が高まり、コントロールもしやすくなると考える。（写真2）

・Voice4UJP

日本語でのやり取りが難しい、あるいはコミュニケーションそのものが難しい子どもに、言葉での要求や説明のためのスキルを育てるツールとして、主に自立活動の指導で活用している。このツールそのものをやり取りの中で活用するというより、このツールによって場に応じた言語的スキルを獲得し、それを生活の中で般化させることを目的とした活用を行っている。

・Lotus

まだ時計が利用できない知的障害を併せ有する子どもにとって、時間的な見通しを持つことができるツールとなっており、既存のタイムタイマーに替わるタイムエイドとして活用している。

・はんぷく計算ドリル（中学3年生数学・因数分解）

・方程式を解け！

・百回計算

以上3点は、中学部の数学指導で活用している。学習の意欲付け及び学習内容の定着を目的として、ドリル学習形式で活用している。

・Safari及びmap機能

コンピュータよりも手軽な検索端末として活用している。抽象的思考の難しい子どもに対して、具体的に画像を示すことで、理解の促進を図っている。特に高等部の社会科や現場実習の事前指導で活用の機会が多い。



写真1 「筆談パッド」を利用した文字の書き取り



写真2 「NoiseLevel」を利用した音読